

平成25年度 評価計画及び自己評価

(計画)・中間・最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 警固屋中学校

a 学校教育目標	「自分を創る」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション> (学校の使命) 小中一貫教育を通して、「自他の幸せを目指し、自立し貢献できる人間」の根っこを育てることを使命とする。
			<ビジョン> (将来の学校像) アメニティ環境に包まれる学校 ・行くのが楽しみな学校の実現を目指す。 ・会うとうれしくなる先生の育成を目指す。 ・会うとうれしくなる仲間の構築を目指す。

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	○学年が上がるにつれ、学習面・生活面の落ち着きが見られる。 ○小中一貫教育のメリットを生かした乗り入れ授業や異学年交流がスムーズに行えている。 △学園全体として、各学年に応じて自治能力を育て、高めていく取組が十分でない。 △小5ギャップが生じており、中学入学後も課題を引きずっている。
------------------------------	---

評価計画(中期経営目標を設定してから ①・2・3年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	9月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	生徒も教職員も生きた言葉で語り合い、触れ合う環境を創る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">貫</div>	○いつでも誰に対しても気持ちの良いあいさつと返事ができる。	自治会長会、民児協、補連協等と連携し、地域と共に「あいさつのできる」警固屋つ子を育てる。	「自分を創る」の言葉のレベルが3(規律)以上を達成できる生徒の割合が90%以上になる。	90%						
地域での生徒のあいさつについて、地域住民の肯定的な評価の割合が80%以上になる。			80%								
○相手を意識し、文末まできちんと言うことができる。		発達段階に応じた話型を示し、話し方の基本を徹底する。	生徒の学校生活での話し方について、教員及び生徒の肯定的評価の割合が85%以上になる。	85%							
○「自分を創る」ことを意識して生活できる。		自立ノートを活用し、毎日の生活を「自分を創る」観点から振り返らせる。	自立ノートに毎日の生活について五行以上書ける生徒が85%以上になる。	85%							
**	かけがえのないのちの自覚を生徒・保護者・地域に根付かせる。	○一人一人がかけがえのないのちであることを自覚できる。	道徳教育の重点目標を「生命尊重」とし、教育相談や自立ノートを効果的に活用し、生徒相互の共感度を高める。	生命の尊さについての生徒の肯定的な評価が100%になる。	100%						
○いじめを許さない学校風土を作る。		いじめ撲滅月間で生徒会による目標設定など、主体的な活動を促し、意識を高める。	いじめアンケートにおいて、「いじめはない」という回答が100%になる。	100%							
*	自分の意見を持ち、自分の言葉で説明できる力をつけ、学びの質を高める。	○思考力の基礎を育てる。	授業研究を年間に各自2回は実施する。授業研究を通して教員が共に学び合い、授業力を高めていく。	思考力の育成のための発問の工夫や授業の展開について、授業研究の際の教員の肯定的評価が85%以上になる。	85%						
○生徒指導の三機能を生かした授業によって、生徒の発言をつなぐ。			生徒の発言のつながりや、そのための場の設定について、授業研究の際の教員の肯定的評価が85%以上になる。	85%							
*	生徒の体力向上を図る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">貫</div>	○課題のある柔軟性を向上させる。	保健体育科及び部活動の準備運動等において、柔軟性を高める運動に継続して取り組む。	長座体前屈の県平均を上回る生徒の割合が70%以上になる。	70%						

[k:評価]
 A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60